

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-191008

(43)Date of publication of application : 23.07.1996

BEST AVAILABLE COPY

(51)Int.Cl. H01F 1/11

(21)Application number : 07-018706 (71)Applicant : MITSUBISHI  
MATERIALS CORP

(22)Date of filing : 11.01.1995 (72)Inventor : IGARASHI KAZUNORI  
ISHIYAMA KOICHI  
KOMADA KIICHI

## (54) MAGNETIC RECORD POWDER

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To obtain a magnetic record powder high in saturated magnetization by a method wherein at least a specific amount of one kind of Sr and Ba, Zn and Mg respectively and a specific amount of Cr, Ti, O respectively are included, and the remainder has a composition of Fe and comprises an oxide of a hexagonal W type ferrite crystal structure.

**CONSTITUTION:** In a magnetic record powder, at least one kind out of Sr and Ba is 1.0 to 3.0% and at least one kind out of Zn and Mg is 2.5 to 13.0%, and Cr is 9.0 to 18.0%, and Ti is 0.5 to 5.0%, and O is 57.0 to 61.0% by atom%, and the remainder has a composition composed of Fe and inevitable impurity and also comprises an oxide having a hexagonal W type ferrite crystal structure. Thus, a coercive force and a Curie point have the substantially same degree and saturated magnetization is increased as compared with a magnetic record powder of a hexagonal ferrite M type crystal structure, and when this powder is used in a magnetic card, a magnetic tape, a magnetic disk or the like, it is possible to reduce a use amount and thin a film of a record medium.

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's  
decision of rejection]

[Kind of final disposal of application  
other than the examiner's decision of  
rejection or application converted  
registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against  
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-191008

(43)公開日 平成8年(1996)7月23日

(51)IntCl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 1 F 1/11			H 0 1 F 1/ 11	L

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平7-18706

(22)出願日 平成7年(1995)1月11日

(71)出願人 000006264

三菱マテリアル株式会社

東京都千代田区大手町1丁目5番1号

(72)発明者 五十嵐 和則

埼玉県大宮市北袋町1-297 三菱マテリアル株式会社中央研究所内

(72)発明者 石山 宏一

埼玉県大宮市北袋町1-297 三菱マテリアル株式会社中央研究所内

(72)発明者 駒田 紀一

埼玉県大宮市北袋町1-297 三菱マテリアル株式会社中央研究所内

(74)代理人 弁理士 富田 和夫 (外1名)

(54)【発明の名称】 磁気記録粉末

(57)【要約】

【目的】 飽和磁化 $\sigma_s$ の高い磁気記録粉末を提供する。

【構成】 原子%で、SrおよびBaのうち少なくとも一種：1.0～3.0%、ZnおよびMgのうち少なくとも一種：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%、を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなることを特徴とする。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 原子%で、

SrおよびBaのうち少なくとも一種：1.0～3.0%

ZnおよびMgのうち少なくとも一種：2.5～13.0%

Cr：9.0～18.0%

Ti：0.5～5.0%

O：57.0～61.0%、を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなることを特徴とする磁気記録粉末。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、磁気カード、磁気テープ、磁気ディスクなどに使用される磁気記録粉末に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、磁気カードなど記録媒体の多様化にともない記録の消失などの事故を防ぐために高保磁力の媒体が使用される傾向にあり、保磁力(iHc) &gt; 5 KOe以上の磁気記録粉末が必要となっている。このような磁気記録粉末は、通常の状態では記録できないので150℃のキュリー点(Tc)付近まで加熱して記録を行っている。

【0003】かかる保磁力(iHc) &gt; 5 KOe以上であり、キュリー点(Tc) 150℃付近の磁気記録粉末として、AをSrまたはBaのうちの1種または2種とすると、

 $AO \cdot n \{ (Fe_{1-x-y}Cr_xZn_y)_2O_3 \}$ ただし、n = 5～6、xおよびyは原子比で、x = 0.2～0.35、y = 0.35～0.45、の成分組成を持つ磁気記録粉末が知られており、この磁気記録粉末は、保磁力(iHc)およびキュリー点(Tc)が従来の磁気記録粉末とほぼ同程度であるが、飽和磁化σ<sub>s</sub>が優れており、この高い飽和磁化(σ<sub>s</sub>)を有する磁気粉末を磁気記録粉末として用いると、塗膜に含まれる磁気記録粉末量を少なくして塗膜を薄くすることができ、その分コストを下げることができるとされている(特開平6-151141号公報参照)。この磁気記録粉末は六方晶フェライトM型結晶構造を有し、成分組成を書き直すと、Sr、Baの内の1種または2種：3.1～3.7原子%、Zn：13.0～16.9原子%、Cr：7.4～13.1原子%、O：59.3～59.4原子%、残部：Fe、のごとくなる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】前記従来の磁気記録粉末は、飽和磁化σ<sub>s</sub>が優れており、したがって、記録出力および記録密度も一層向上し、そのためにこの従来の磁気記録粉末を用いて作製された磁気カードなど記録媒

体は塗膜をかなり薄くすることができたが、近年、一人が携帯する磁気カードの数は増加の一途をたどり、磁気カードの厚さを一層薄くするよう求められている。磁気カードの厚さを一層薄くするには飽和磁化σ<sub>s</sub>を一層向上せしめれば良く、飽和磁化σ<sub>s</sub>を向上させるにはZnの含有量を増加させれば良いが、一般に、Znの含有量を増加させて飽和磁化σ<sub>s</sub>を向上させると保磁力(iHc)が低下し、さらにキュリー点(Tc)が高くなるという課題があった。

【0005】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明者らは、かかる観点から保磁力(iHc)およびキュリー点(Tc)を従来とほぼ同じでありながら、飽和磁化σ<sub>s</sub>が従来よりも一層優れた磁気記録粉末を開発すべく研究を行った結果、重量%で、SrおよびBaのうちの1種または2種：1.0～3.0%、ZnおよびMgのうちの1種または2種：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有するフェライトは、結晶構造が六方晶フェライトW型結晶構造となり、従来の六方晶フェライトM型結晶構造の磁気記録粉末と比べて保磁力(iHc)およびキュリー点(Tc)が従来の磁気記録粉末とほぼ同程度であるが、飽和磁化σ<sub>s</sub>が一層高くなる、という知見を得たのである。

【0006】この発明は、かかる知見にもとづいてなされたものであって、原子%で、SrおよびBaのうち少なくとも一種：1.0～3.0%、ZnおよびMgのうち少なくとも一種：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%、を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、に特徴を有するものである。さらに、詳細には、(1) Sr：1.0～3.0%、Zn：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(2) Sr：1.0～3.0%、Mg：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(3) Sr：1.0～3.0%、ZnおよびMgの合計：2.5～13.0%、Cr：9.0～18.0%、Ti：0.5～5.0%、O：57.0～61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(4) Ba：1.0～3.0%、Zn：

2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(5) Ba:1.0~3.0%、Mg:2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(6) Ba:1.0~3.0%、ZnおよびMgの合計:2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(7) SrおよびBaの合計:1.0~3.0%、Zn:2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(8) SrおよびBaの合計:1.0~3.0%、Mg:2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、(9) SrおよびBaの合計:1.0~3.0%、ZnおよびMgの合計:2.5~13.0%、Cr:9.0~18.0%、Ti:0.5~5.0%、O:57.0~61.0%を含有し、残りがFeおよび不可避不純物からなる組成を有しかつ六方晶W型フェライト結晶構造を有する酸化物からなる磁気記録粉末、に特徴を有するものである。

【0007】この磁気記録粉末のSrおよびBaのうち少なくとも一種を上記のごとく限定したのは、SrおよびBaのうち少なくとも一種が1.0~3.0%の範囲を外れると六方晶W型フェライト結晶構造とならず、結果としてキュリー点(Tc)が高くなり、保磁力(iHc)が低下するので好ましくないからである。SrおよびBaのうち少なくとも一種の含有量の一層好ましい範囲は2.0~2.5%である。

【0008】この磁気記録粉末のZnおよびMgのうち少なくとも一種の含有量を2.5~13.0%に限定したのは、2.5%未満ではキュリー点(Tc)が高くなり、飽和磁化σ、が低下し、一方、13.0%を越えると飽和磁化σ、および保磁力(iHc)が低下するので好ましくないからである。ZnおよびMgのうち少なくとも一種の含有量の一層好ましい範囲は4.0~9.0%である。

【0009】この磁気記録粉末のCr含有量を9.0~

18.0%に限定したのは、9.0%未満では、キュリー点(Tc)が高くなり、保磁力(iHc)が低下し、一方、18.0%を越えると飽和磁化σ、が低下するので好ましくないからである。Cr含有量の一層好ましい範囲は10.0~15.0%である。

【0010】この磁気記録粉末のTiの含有量を0.5~5.0%に限定したのは、0.5%未満ではキュリー点(Tc)が高くなり、飽和磁化σ、が低下し、一方、5.0%を越えると飽和磁化σ、および保磁力(iHc)が低下するので好ましくないからである。Tiの含有量の一層好ましい範囲は1.0~3.0%である。

【0011】この磁気記録粉末の酸素含有量を57.0~61.0%に限定したのは、この範囲を外れると飽和磁化σ、および保磁力(iHc)が低下するので好ましくないからである。酸素含有量の一層好ましい範囲は58.0~60.0%である。

【0012】この発明の磁気記録粉末は、SrCO<sub>3</sub>、粉末、BaCO<sub>3</sub>、粉末、ZnO粉末、MgO粉末、TiO<sub>2</sub>粉末、Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、粉末およびFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>粉末を所定量配合し、混合粉碎したのち、大気または酸化性雰囲気中、温度:1450~1650℃、3~10時間保持の条件で仮焼し、得られた仮焼体をボールミルまたはアトライターにより粉碎したのち、大気または酸化性雰囲気中、温度:1550~1650℃、3~10時間保持の条件で焼成し、さらに微粉碎した後大気中において、温度:500~1200℃、3~10時間保持の条件でアニールすることにより製造される。

【0013】

【実施例】原料粉末として、平均粒径:1~3μmの範囲内のSrCO<sub>3</sub>、粉末、BaCO<sub>3</sub>、粉末、ZnO粉末、MgO粉末、TiO<sub>2</sub>粉末、Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、粉末およびFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>粉末を用意した。

【0014】これら原料粉末を表1~表5に示される割合で配合し、ボールミルに充填し、1時間混合粉碎したのち、電気炉を用い、大気中、温度:1600℃、5時間保持の条件で仮焼し、得られた仮焼体をアトライターにより3時間粉碎したのち、さらに電気炉を用い、大気中、温度:1600℃、5時間保持の条件で本焼成し、この焼成体を回転式ボールミルにより100時間微粉碎し、さらに、大気中、表1~表5に示される温度に5時間保持してアニールを行ない、表6~表10に示される成分組成の本発明磁気記録粉末1~43、比較磁気記録粉末1~14および従来磁気記録粉末1~3を製造した。

【0015】これら磁気記録粉末の保磁力(iHc)、キュリー点(Tc)および飽和磁化(σ、)を測定し、これらの測定値を表6~表10に示した。

【0016】

【表1】

種 別		原 料 の 配 合 組 成 (重量%)							焼成体微粉砕粉末の アニール温度 (℃)
		SrCO <sub>3</sub>	BaCO <sub>3</sub>	ZnO	MgO	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
本 発 明 磁 気 記 録 粉 末	1	5.5	-	8.5	4.0	29.5	5.5	47.0	1050
	2	8.0	-	8.0	4.0	30.0	5.0	45.0	1050
	3	10.0	-	8.5	4.0	28.5	5.0	44.0	1050
	4	13.0	-	8.0	4.0	28.0	5.0	41.5	1050
	5	-	7.0	8.0	4.0	29.5	5.0	43.5	1000
	6	-	10.5	8.0	4.0	28.0	4.5	44.5	1000
	7	-	13.0	8.5	4.0	29.0	5.0	41.0	1000
	8	-	15.5	8.0	4.0	27.5	4.5	40.5	1000
	9	4.5	6.5	7.0	-	28.5	5.0	48.5	1000
	10	4.5	6.5	11.0	-	28.0	5.0	45.0	1000
	11	4.5	7.0	15.0	-	27.5	5.0	41.0	1000
	12	4.5	6.5	21.5	-	27.0	4.5	36.5	1000

【0017】

\* \* 【表2】

種 別		原 料 の 配 合 組 成 (重量%)							焼成体微粉砕粉末の アニール温度 (℃)
		SrCO <sub>3</sub>	BaCO <sub>3</sub>	ZnO	MgO	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
本 発 明 磁 気 記 録 粉 末	13	4.5	6.5	28.5	—	26.5	4.5	30.0	1000
	14	5.0	6.0	—	3.5	29.5	5.0	51.5	1000
	15	5.0	5.5	—	5.5	29.0	5.0	49.0	1000
	16	4.5	7.0	—	8.5	30.5	5.0	45.0	1000
	17	5.0	7.5	—	12.5	30.5	5.5	39.0	1000
	18	5.5	7.5	—	17.0	31.0	5.0	34.0	1000
	19	5.5	6.5	8.0	4.0	21.5	5.0	49.5	1000
	20	5.0	6.5	8.0	4.0	25.1	5.0	47.0	1000
	21	5.5	7.0	8.0	4.0	29.0	5.0	42.0	1050
	22	4.5	6.5	8.0	4.0	35.0	5.0	37.0	1050
	23	4.5	6.5	8.5	4.0	40.0	5.0	31.5	1100
	24	5.0	6.0	8.0	4.0	29.5	2.0	46.0	1000

【0018】

【表3】

種 別		原 料 の 配 合 組 成 (重量%)							焼成体微粉粉末の アニール温度 (℃)
		SrCO <sub>3</sub>	BaCO <sub>3</sub>	ZnO	MgO	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
本 発 明 磁 気 記 録 粉 末	25	5.0	8.5	8.0	4.0	29.0	4.5	42.5	1000
	26	5.0	6.5	8.0	4.0	28.5	8.0	40.0	1000
	27	4.5	6.5	8.0	4.0	28.0	11.0	38.0	1000
	28	4.5	7.0	8.0	4.0	27.5	4.5	45.0	1150
	29	5.5	7.0	8.0	4.0	28.5	5.0	42.5	1050
	30	5.5	6.5	8.0	4.0	29.0	5.5	42.0	1000
	31	5.0	7.5	8.0	4.0	30.0	5.0	40.0	950
	32	10.0	-	10.5	-	28.5	5.0	46.0	1050
	33	10.0	-	15.0	-	28.0	5.0	42.0	1050
	34	9.0	-	19.0	-	27.5	4.5	39.5	1050
	35	11.0	-	-	6.0	30.0	5.5	48.0	1050
	36	10.5	-	-	8.5	30.5	5.0	46.0	1050

【0019】

\* \* 【表4】

種 別		原 料 の 配 合 組 成 (重量%)							焼成体微粉粉末の アニール温度 (℃)
		SrCO <sub>3</sub>	BaCO <sub>3</sub>	ZnO	MgO	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
本発明 磁気 記録 粉末	37	11.0	—	—	10.5	31.0	5.0	42.5	1050
	38	—	13.0	11.0	—	26.5	4.5	45.0	1000
	39	—	12.0	15.5	—	27.5	4.5	40.5	1000
	40	—	12.5	19.5	—	26.5	5.0	38.5	1000
	41	—	13.0	—	5.5	28.5	5.0	48.0	1000
	42	—	14.0	—	8.5	29.0	5.0	43.5	1000
	43	—	13.0	—	10.0	29.5	5.0	42.0	1000
比較 磁気 記録 粉末	1	3.5	—	8.5	4.5	29.5	5.0	49.0	1050
	2	15.5	—	8.0	4.0	29.0	5.0	39.0	1050
	3	—	4.0	9.0	4.0	30.5	5.5	48.0	1000
	4	—	20.0	7.5	3.5	26.5	4.5	38.5	1000
	5	5.0	6.5	5.0	—	27.5	5.0	51.5	1000

【0020】

【表5】

種 別		原 料 の 配 合 組 成 (重量%)							焼成体微粉砕粉末の アニール温度 (℃)
		SrCO <sub>3</sub>	BaCO <sub>3</sub>	ZnO	MgO	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
比較磁気記録粉末	6	5.0	6.0	33.0	—	27.0	4.5	24.5	1000
	7	4.5	6.0	—	2.5	27.5	5.0	55.0	1000
	8	5.5	7.0	—	20.0	32.5	6.0	29.0	1000
	9	5.0	7.0	7.5	4.0	18.0	5.0	53.5	950
	10	5.5	6.5	8.0	4.0	45.0	5.0	26.0	1100
	11	4.5	6.5	8.0	4.0	28.5	0.5	48.0	1000
	12	5.5	6.0	8.0	4.0	28.5	14.0	34.5	1000
	13	4.5	6.0	7.5	3.5	28.5	5.0	48.5	1200
	14	5.5	7.0	8.5	4.0	31.5	5.5	38.0	900
従記 来録 磁粉 気末	1	14.5	—	35.5	—	22.5	—	27.5	1050
	2	—	18.0	33.5	—	21.0	—	27.5	1000
	3	6.5	9.5	34.0	—	21.5	—	28.0	1000

【0021】

\* \* 【表6】

種 別		組 成 (原子%)							磁 気 特 性			
		Sr	Ba	Zn	Mg	Cr	Ti	O	Fe+ 不純物	$\sigma_s$ (mu/g)	Hc (kOe)	Tc (°C)
本 発 明 磁 気 記 録 粉 末	1	1.2	—	3.2	3.3	12.2	2.2	59.3	残	30.2	6.7	155
	2	1.7	—	3.1	3.3	12.6	2.0	59.2	残	31.9	7.2	150
	3	2.2	—	3.3	3.4	12.3	2.0	58.8	残	33.0	7.8	150
	4	2.9	—	3.3	3.2	12.2	2.1	59.1	残	31.1	7.0	150
	5	—	1.1	3.1	3.2	12.5	2.1	59.3	残	30.9	6.5	155
	6	—	1.8	3.3	3.1	12.3	1.9	59.1	残	32.4	7.4	150
	7	—	2.2	3.4	3.4	12.7	2.0	59.1	残	33.3	8.0	145
	8	—	2.7	3.3	3.3	12.5	2.0	58.8	残	31.5	7.2	150
	9	1.0	1.1	3.0	—	12.8	2.1	59.4	残	30.2	8.1	155
	10	1.1	1.1	4.6	—	12.7	2.1	59.1	残	31.5	8.5	150
	11	1.1	1.2	6.3	—	12.4	2.2	59.2	残	32.9	8.3	150
	12	1.0	1.1	9.1	—	12.1	2.0	59.0	残	32.0	7.8	145

【0022】

【表7】



種 別		組 成 (原子%)							磁 気 特 性			
		Sr	Ba	Zn	Mg	Cr	Ti	O	Fe+ 不純物	$\sigma_s$ (emu/g)	Hc (kOe)	Tc (°C)
本 発 明 磁 気 配 録 粉 末	13	1.0	1.1	12.2	—	12.1	1.9	58.7	残	30.7	7.0	140
	14	1.1	1.0	—	2.9	12.7	2.0	59.3	残	29.9	7.4	150
	15	1.1	1.1	—	4.4	12.3	2.1	59.2	残	30.9	7.8	150
	16	1.0	1.1	—	6.5	12.6	1.9	59.2	残	32.0	7.6	150
	17	1.0	1.2	—	9.5	12.2	2.2	59.0	残	31.2	7.2	145
	18	1.1	1.1	—	12.4	12.1	1.9	58.8	残	30.1	6.8	140
	19	1.2	1.1	3.2	3.3	9.4	2.1	59.1	残	34.5	6.4	155
	20	1.1	1.1	3.2	3.2	11.0	2.0	58.8	残	33.7	6.7	150
	21	1.2	1.2	3.2	3.4	12.6	2.0	59.0	残	33.1	7.9	150
	22	1.0	1.1	3.3	3.3	15.0	2.1	59.1	残	31.2	8.4	145
	23	1.0	1.1	3.4	3.2	17.1	2.1	59.2	残	29.8	9.1	140
	24	1.1	1.0	3.2	3.2	12.9	0.8	58.7	残	30.7	8.4	155

【0023】

\* \* 【表8】

種 別		組 成 (原子%)								磁 気 特 性		
		Sr	Ba	Zn	Mg	Cr	Ti	O	Fe+不純物	$\sigma_s$ (emu/g)	Hc (kOe)	Tc (°C)
本発明 磁気 配 録 粉 末	25	1.1	1.1	3.3	3.4	12.8	1.9	58.9	残	32.8	8.1	150
	26	1.1	1.1	3.2	3.2	12.5	3.3	59.0	残	33.0	7.5	150
	27	1.0	1.1	3.3	3.2	12.2	4.5	59.0	残	31.6	7.0	145
	28	1.1	1.2	3.3	3.3	12.4	2.0	57.3	残	31.4	7.3	150
	29	1.2	1.2	3.2	3.2	12.6	2.0	58.8	残	32.9	8.0	150
	30	1.2	1.1	3.2	3.3	12.1	2.2	59.7	残	31.6	7.4	150
	31	1.1	1.2	3.2	3.3	12.7	2.0	60.5	残	30.9	7.1	150
	32	2.3	-	4.3	-	12.6	2.1	59.2	残	31.3	8.6	150
	33	2.3	-	6.3	-	12.4	2.1	59.0	残	32.7	8.1	150
	34	2.1	-	7.9	-	12.3	2.0	59.1	残	31.5	7.9	145
	35	2.4	-	-	4.6	12.8	2.2	59.0	残	31.0	8.3	150
	36	2.2	-	-	6.5	12.5	1.9	59.0	残	32.2	8.0	145

【0024】

【表9】

種 別		組 成 (原子%)								磁 気 特 性		
		Sr	Ba	Zn	Mg	Cr	Ti	O	Fe+不純物	$\sigma_s$ (emu/g)	Hc (kOe)	Tc (°C)
本発明磁気記録粉末	37	2.3	-	-	8.1	12.5	2.0	58.8	残	31.7	7.8	145
	38	-	2.3	4.7	-	12.3	2.0	59.1	残	31.2	8.4	150
	39	-	2.1	6.6	-	12.7	1.9	58.9	残	32.5	8.2	150
	40	-	2.2	8.3	-	12.3	2.2	59.0	残	31.8	7.9	145
	41	-	2.2	-	4.4	12.5	2.1	59.0	残	31.0	6.1	155
	42	-	2.3	-	6.7	12.2	2.1	59.2	残	32.1	7.7	150
	43	-	2.1	-	8.0	12.3	2.0	58.9	残	31.7	7.6	145
比較磁気記録粉末	1	*0.7	-	3.3	3.3	12.2	2.0	59.3	残	26.7	5.7	180
	2	*3.5	-	3.3	3.2	12.8	2.1	58.8	残	27.6	5.9	155
	3	-	*0.6	3.4	3.2	12.6	2.1	59.2	残	27.0	5.5	160
	4	-	*3.6	3.2	3.1	12.3	1.9	58.8	残	27.5	5.9	155
	5	1.2	1.1	*2.0	-	12.3	2.1	59.2	残	27.8	7.1	155

(\*印は本発明の範囲外の値を示す)

【0025】

\* \* 【表10】

種 別		組 成 (原子%)							磁 気 特 性			
		Sr	Ba	Zn	Mg	Cr	Ti	O	Fe+不純物	$\sigma_s$ (emu/g)	Hc (kOe)	Tc (°C)
比較磁気記録粉末	6	1.2	1.1	*14.1	—	12.4	2.0	58.6	残	26.9	6.1	145
	7	1.0	1.0	—	*1.9	12.1	2.0	59.1	残	26.4	6.7	160
	8	1.1	1.0	—	*14.3	12.2	2.1	58.8	残	27.0	6.0	140
	9	1.1	1.2	3.1	3.2	*7.9	2.0	59.1	残	33.5	5.4	165
	10	1.2	1.1	3.3	3.2	*19.5	2.0	58.0	残	26.9	10.6	140
	11	1.0	1.1	3.2	3.1	12.5	*0.3	58.8	残	26.1	7.3	160
	12	1.2	1.0	3.2	3.2	12.3	*5.7	59.1	残	27.4	5.8	145
	13	1.1	1.1	3.3	3.2	12.4	2.2	*56.2	残	27.5	6.1	150
	14	1.1	1.1	3.2	3.2	12.8	2.1	*61.9	残	27.2	5.9	150
従来磁気記録粉末	1	3.4	—	15.1	—	10.3	—	59.3	残	26.5	9.0	150
	2	—	3.3	14.8	—	10.0	—	59.4	残	27.3	8.8	155
	3	1.6	1.7	14.9	—	10.1	—	59.3	残	27.0	8.7	150

(\*印は本発明の範囲外の値を示す)

【0026】

【発明の効果】表6～表10に示される結果から、本発明磁気記録粉末1～43は、従来磁気記録粉末1～3に比べて、保磁力 (iHc) およびキュリー点 (Tc) は、ほぼ同等であるが、従来磁気記録粉末1～3よりも飽和磁化 ( $\sigma_s$ ) が一層優れていることが分かる。しかし、この発明の範囲外の値 (表において、この発明の範囲外の値に\*印を付して示した。) を有する比較磁気記

録粉末1～14は、保磁力 (iHc)、キュリー点 (Tc) および飽和磁化 ( $\sigma_s$ ) のうちいずれかが好ましくない値を示すことが分かる。

【0027】したがって、この発明の磁気記録粉末を磁気カード、磁気テープ、磁気ディスクなどに使用すると、磁気記録粉末の使用量を従来よりもさらに少なくしかも記録媒体の塗膜を一層薄くすることができるなどの優れた効果を奏するものである。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**